

電氣學會雜誌 第69卷 附録

電氣學會々報

(昭和24年5月1日發行)(第三種郵便物認可昭和22年8月26日)

昭和23年度事務及事業報告

昭和23年4月から24年3月に至る間に於て執行した事務及び事業の概要を報告する。

1. 會 員

正准員の異動は下表の如くである。

	正員	准員	合計
再登録	188	—	188
入會	399	516	945
轉出入	(+)569	(-)569	0
退會	103	39	142
死亡	60	3	63
差引増減	(+)993	(-)65	(+)928

専業維持員の異動は下表の如くである。

	社所數	口數
入會	10	14
退會	22	26
差引減	12	12

期末會員數 24年3月末現在の會員數は下表の如くである。

	24年3月末	23年3月末	増減
名譽員	9	9	0
正員	9,548	8,555	(+)993
贊助員	6	6	0
維持員	348	360	(-)12
准員	1,692	1,757	(-)65
合計	11,603	10,687	(+)916

正員中「特例會費會員」287名、「終身會員」700名である。

2. 會 合 數

本期間の會合數は410回で、前期間280回に比し130回を増加した。

總會	2回
役員會	4回
理事會	11回
編修委員會	13回
賞金委員會	1回
技術委員會	172回
關西支部研究委員會	31回

電氣規格調査會	114回
電氣技術普及會	31回
通信教育準備委員會	16回
ポケットブック改訂委員會	10回
その他	5回
合計	410回

3. 規程の制定及改正

- (1) 定款及本會規則の改正(23年8月, 會費増額)
- (2) 電氣規格調査會規則の改正(24年3月)
- (3) 電氣通信教育會規則の制定(24年3月)

4. 會費の改正

23年8月次の如く改正した。

	舊	改正
正員會費	203圓	400圓
准員 "	170	300
維持員 "(1口)	1,000	1,500
特例 "	70	150
正員入會金	60	100
准員 "	30	50

(1) 正員會費, 准員會費, 特例會費には, 夫々月拂, 半年前拂, 一年前拂の規程があるが, 本表には, 一年前拂の金額を示した。

5. 功績の表彰

23年4月, 通常總會で「淺野博士獎學祝金」を山下英男, 佐藤亮策の兩君に, 「大同電力記念賞金」を一本松珠璣君に増呈した。(受賞事項は會報10號に掲載)

6. 講演會・講習會・見學會

支部大會 全國大會が復活の運びとならないので, 下記支部に於て夫々電氣通信學會及び照明學會支部と連合又は單獨で支部大會を開催した。

支 部	日 數	講 演 數	
		特 別	數
東 京	3	3	261

關 西	2	3	96
九 州	1	3	30
東 北	2	—	37
東 海	2	—	60

講演會 本期間本部及び支部で開いた大會, 講演會, 講習會, 見學會の數は合計73回で, 前期間58回に比し15回を増加した。これを支部別を示すと下表の如くである。

	大 會	講 演 會	講 習 會	見 學 會	合 計
本 部	—	1	—	—	1
東 京 支 部	1	10	1	1	13
關 西 "	1	5	2	2	10
九 州 "	1	5	—	1	7
東 北 "	1	8	—	1	10
東 海 "	1	5	—	1	7
中 國 "	—	11	—	2	13
北 海 道 "	—	4	—	1	5
北 陸 "	—	1	—	1	2
四 國 "	—	1	—	1	2
茨 城 "	—	3	—	—	3
合 計	5	54	3	11	73

7. 雜誌及會報

雜誌 本期間は下記十二冊を發行した。

卷 號	冊	發行年月	頁 數
68—712	23年2冊	23年5月	26
713	3冊	5月	3)
714	4冊	6月	22
715	5冊	8月	30
716	6冊	8月	26
717	7冊	10月	26
718	8冊	10月	32
719	9冊	12月	34
720	10冊	24年1月	27
721	11冊	1月	34
722	12冊	3月	30
69—723	24年1冊	3月	45

「發行年月」はその雜誌の發行された實際の年月を示した。

以上12冊の總頁數は362頁で前期84頁(10冊)に比し78頁を増加した。尙24年1月號から從來本文と共紙であつた表紙を別紙色刷とした。

	本期頁	前期頁	増 減
會長演說	1	2	(-) 1
說 苑	2	2	0
資料論文	207	142	(+) 65
特集論文	41	36	(+) 5

懸賞論文	0	13	(-)	13
講演	11	0	(+)	11
調査報告	28	22	(+)	6
技術綜説	39	13	(+)	26
書面討論	0	4	(-)	4
研究速報	0	7	(-)	7
學界時報	33	40	(-)	7
其 他	0	3	(-)	3
合 計	362	284	(+)	78

全文の謄寫刷 雑誌に掲載された「要旨」を読んで「全文」を希望する申込が50部に達した場合は全文の謄寫版刷を作つて配布することとなつてゐるが、本期には3種を發行した。

(この制度は、「論文集」の復刊に伴い廢止する)

論文集の復刊 本會雑誌一般寄稿の全文の大部分が發表されないことは誠に遺憾なことなので、種々考究の結果、先づ「會員の聲」を調査した處、發行の場合購入の希望が相當多かつたので、題號を「電氣工學論文集」と改めてこれを復刊することとした。第1號の發行は來る5月下旬の豫定で準備を進めてゐる。

論文集概要

内 容 資料及び論文の全文(雑誌に要旨を掲載した資料及び論文の中、編修委員會が適當と認めたもの)、その歐文(主として英文)の内容梗概、學界季報(海外重要論文の詳しい紹介)、外國雜誌文献題目。

體 裁 B-5判(電氣學會雜誌と同型)

頁 數 64頁(每號)

發 行 季刊(5, 8, 11, 2月)

定 價 年額360圓(90圓×4册, 送料會負擔)

會 報 本期間は(10)~(12)の3册(14頁)を發行した。

8. 出 版

電氣工學年報 前期印刷中であつた昭和21年版は、23年9月出版となつた。尙、24年版の編集に着手した。

電氣工學ポケットブック 23年11月、第7版を「丸善」から發行した。前回發行のものは2册に分けられたが、今回は用紙を上質のものとし1册に復した。

本冊の全面的改訂は、前年來の懸案であつたが、24年12月、第1回の改訂委員會を開きこれに着手した。

電氣知識普及資料 下記4種を發行した。

- (1) 科學繪本・お家の電氣(23年7月發行)
- (2) 感電の話(23年7月初版, 24年1月再版發行)
- (3) 停電を防止するには(24年1月發行)
- (4) 日本の再建は水力電氣の開發から(同)

最近の真空技術とその應用 東京支部専門講習會豫稿として、23年11月に發行した。

専門講習會豫稿 前期に引續き「工學館」から下記3種を發行した。

- (1) 電氣工學に於ける數學の應用(II)(23年6月發行)
- (2) 送電工學要講(“10月”)
- (3) 電氣機器要講(“11月”)

電氣技術綜説 従來雑誌に掲載されたものを部門別に編修「電氣書院」から刊行する準備中であつたが、本期に於て下記4冊を發行した。

- 第1集 電氣物理(23年7月發行)
- 第2集 測定及電子裝置(“4月”)
- 第3集 電氣機器上巻(“10月”)
- 第4集 送配電及電鐵(“8月”)

電氣標準規格 前期に引續き本期は「電氣書院」から次の8種を發行した。

- (1) 送電用鐵塔及鐵柱(JEC22A, B-1942)
- (2) 進相用蓄電器, 蓄電器用直列リアクトル及び蓄電器用放電線論(“61-1942)
- (3) 電氣機械の絶緣耐力試験電圧(“86Z, 35Z, 37Z, 54Z-1944)
- (4) 電氣器具の定格電流(“104-1944)
- (5) 第二種絶緣電線及び第四種絶緣電線の許容電流(“85-1934)
- (6) 電氣用單位の記號(“109-1945)
- (7) 電力ヒューズ(“113-1947)
- (8) 同期機(“114-1948)

電氣防止操典 品切であつたが23

年5月「電氣書院」から發行した。

9. 研究費補助

本期「岩垂資金」から次の通り支出した。

- (1) 電磁波の廻折に関する基礎的研究-伊藤誠君(2,000圓)(前年度の繼續)
- (2) 妨害電波研究費-妨害電波研究委員會(5,000圓)
- (3) 送電網異常現象研究費-送電網異常現象研究委員會(3,000圓)

10. 電氣規格

電氣規格調査會本期間の會合數は114回で前期116回に比し2回を減じた。**規程の改正** 「3規程の制定及改正」に記載の如く、24年3月、電氣規格調査會規程を改正した。主な改正事項は次の如くである。

- (1) 委員「50名以内」を「60名以内」に増加
- (2) 理事「7名以内」を「10名以内」に増加
- (3) 會長, 副會長, 理事, 委員長選定方法の民主化
- (4) 委員總會出席定數「10名以内」を「20名以上」に増加, 委任出席制の制定
- (5) 常置委員會規定の制定
- (6) その他字句の整備等

委員會の新設及び解散 は次の如くである。

シンボル標準調査委員會(23年8月新設)

水車標準調査委員會(同9月解散)
制定又は改定規格 本期間調査を完了し確定した規格は次の3種である。

- (1) 電氣機器の溫度上昇限度(JEC-116-1947)
- (2) 水車(改訂)(“117-1948)
- (3) 計器用變成器(改訂)(“118-1948)

日本規格原案作成 日本規格(JES)の原案として次の15種を提出した。

- (1) 交流積算電力計(JEC-115の全部)
- (2) 計器用變成器(JEC-118の一部)
- (3) 絶緣抵抗計の一部改訂
- (4) 250粒懸垂碍子

(5) 180耗懸垂碍子

(6—(14) 屋内配線用器具類 9種 (ローゼット類, 防水ソケット, 防水プルスイッチ, ツメ付ヒューズ, 筒形ヒューズ, 木台, ケッチホルダ, フラツシプレート, ハトメ)

(15) 輸出碍子規程

又, 文部省の委託に依り「實業學校教科書用標準電氣用語案」を決定した。

廢止規格 次の規格は改訂の上 JES となつたので, これを廢止した。

(1) 254耗懸垂碍子 (JEC-4C-1941)

(2) 180耗懸垂碍子 ("46-1941)

(3) 線付防水ソケット ("7C-1942)

(4) 防水プルスイッチ ("84-")

調査中の規格 目下調査中のものは次の如くである。

(1) 碍子 (碍子試験規程—特別高圧ビン碍子—特別高圧架線金具—ピン型支持碍子—高圧茶台碍子—高圧碍管)

(2) 電氣用圖形記號 (展開用—電線接続圖用—送電關係圖用—電氣車輛用)

(3) 斷路器

(4) 電氣計器 (指示電氣計器—回路計—記録電氣計器—計器用抵抗材料)

(5) 電線 (絶縁電線—600Vゴム絶縁線)

(6) 用語 (實業學校教科書用電氣用語の解説—専門電氣用語の選定及び解説)

(7) 電鐵用電氣機器

(8) 屋内配線用器具 (安全閉閉器ねじ込接続器, さし込接続器, 小型スイッチ類, 開放ナイフスイッチの以上の再検討—鐵函閉閉器—引掛式コンセント及びコネクタ)

(9) 電氣單位變更用換算率

(10) 静止誘導器

規格パンフレットの發行「8出版」に記載の如く 8種を出版した。

工業技術廠からの調査委託 本期間日本規格原案作成の委託を受けたものは次の 7種である。

(1) 交流積算電力計

(2) 計器用變成器

(3) 碍子試験規程

(4) 特別高圧ビン碍子

(5) 絶縁電線

(6) 電氣用圖形記號

(7) 計器用抵抗線及び抵抗板

11. 調査研究

本期間 電氣技術委員會の部門, 專門, 特別各委員會の會合数は 172回で, 前期 103回に比し 69回を増加した。

委員會の新設 10月に, 「點孤子專門委員會」を設置した。

調査完了事項 は次の 13種で, その一部は學會誌に發表, 他も順次發表の豫定である。

(1) 人絹工業に於ける電力應用

(2) 硫安工業に於ける電力原單位

(3) 石灰窒素工業に於ける電力原單位

(4) メートル波の電界強度測定器規格案

(5) メートル波の FM 用受信機試験規格案

(6) 超短波電圧標準 (熱電對式)

(7) 真空管電圧計の理論的設計

(8) Q型真空管電圧計の試作

(9) CC型超短波電力計

(10) 動力用變圧器のインピーダンス電圧標準値

(11) 動力用變壓器の標準タップ電圧

(12) 自冷式變圧器の時定數の標準案

(13) 發電所に於ける直接々地施行基準案

調査中の主な事項 は次の如くである。

(1) 研究所設備問題

(2) 名著作の振興開發に關する問題

(3) 新制大學の教養學部に於ける基礎學

(4) 真空管技術の普及

(5) 電氣鐵道に於ける水銀整流器の使用實績

(6) 送電に對する電子裝置の應用

(7) 水銀整流器と回轉變流機との

並列運轉

(8) 車輛故障並に防止對策

(9) 電車線架線構造の改良

(10) 今後の電車に對する研究

(11) 鐵道に於ける電力應用

(12) 各種産業に於ける電力應用と原單位

(13) 超短波電流標準 (吊線式)

(14) 變圧器運轉の指針

(15) 變圧器の機械的強度の規準値

(16) 絶縁材料試験法の成文化

(17) 點孤子の研究

(18) 珪素鋼板の研究

(19) 70KV以下の絶縁協調對照表

(20) 演算法の公式集

研究委員會 關西支部に於ては昨年度「妨害電波研究委員會」を設置(電氣通信學會と連合)したが, 24年2月更に「電力網異常現象研究委員會」を設置した。本期間に於ける兩委員會の會合数は 31回で調査を進めている。

12. 電氣知識普及

電氣技術普及會本期間の會合数は 31回で前期 29回に比し 2回を増加した。

電氣知識普及資料の刊行 本期においては「8出版」に記載の如く 4種を刊行し, 廣く頒布した。

新計器考案懸賞募集 我國に於ては電燈需要家總數の 70%に當る約 900 萬戸の定額電燈需要家がある。これを速かに從量化することは現下の情勢から特に要望される所である。又再建日本の工場に於ては, 電氣の取引は別としても工場内に於ける電力の使用を合理化することが痛感されるので, これを促進するための計器の充實も全様強く要望せられる所である。以上の見地から

(1) 電氣の取引に使用出来る新型積算計器

(2) 電氣の取引に使用するよりも, むしろ工場その他に於ける電力使用合理化に役立つ新しい計器

の考案の懸賞募集を行うこととし, 23年10月發表したが, 19件の応募が

あり、目下審査中である。

13. 通信教育

電氣技術委員會「教育及研究部門委員會」から“通信講座”に關する調査報告があつたのは、23年1月であつた。爾來更に種々調査研究を進めた結果、同年8月、臨時總會に於て別に“財團法人”を設置してこれを行うことに決定した。しかるに、その後財團法人の設置には50萬圓以上の資金を固定するの必要を生じたので、本會に於て直接經營することに方針を改め、具体的準備を進めている。この方針變更については來る4月通常總會に於て承認を得た上豫て準備した「電氣學會通信教育規則」を實行に移し、24年10月開講の豫定である。

14. 日本學術會議

前期には、「學術体制刷新委員會委員選定人」12名を選出したが、これ等選定人の互選に依つて該委員會委員が決定し、その協議に依つて“日本學術會議法”が生れた。同會議の會員は、所定の資格を有し且つ登録された者が有権者（會員の選舉權及び被選舉權を有する者）となり、その互選に依つて選定される。本會、電氣通信學會、照明學會、日本電波協會の4會は、電氣工學部門の資格證明團體に指定されたので、所屬全會員につき調査しその結果を報告した。次で會員の選舉に對し、4學協會は、全國區候補者8名、地方區候

補者7名（支部の選定による）を推薦したが、全國區に於て大山松久郎、駒形作次、濱田成徳の3君、地方區に於て鳥養利三郎君が當選した。尙電氣工學部門に於て立候補した八木秀次君及び他から推薦された堤秀夫君が當選した。

15. 其他

海外文獻と交換 聯合軍總司令部民間通信部F・A・ポールキング・ホーン氏の斡旋に依り米國の學會その他に對し機關誌の交換と論文の翻譯許容について交渉中のところ、AIEEとIREとからは交換には應じられないが、ほん譯は箇々のものについて交渉に應ずる旨回答があつた。又BSTJとBLRとからは全面的に應諾の回答があつた。

輸入文獻の配分 について工業技術廳と文部省から依頼があつたので、電氣通信及び照明學會と協議の上原案を作りこれを報告した。

工業學協會連合會 が出來てこれに加入したことは前回報告した如くであるが、この會が仕事を進めて行くことと日本工學會と同一性格となつて來たので兩會の合併を提唱した。その結果日本工學會の定款を改正して門戸を廣げ、工學協達は解散して工學會に合併することとなつた。

都市防災期成同盟 が建築學會の提唱に依り結成されたのでこれに加入した。

武夫（近畿鐵道）辻吉正（住友電工）松本榮治（日發）横須賀正壽（三菱電機）

九州支部

支部長 倉山 唯範（三池鑛業）
庶務幹事 宮副 泰（九大）
會計幹事 中島 忠輔（九配）
評議員 石橋 渡（熊本工專）
古賀 孝（日發）高野信二（三菱電機）
福井重信（安川）溝口研吾（明治工專）

東北支部

支部長 堀 裕（東北配電）
庶務幹事 二村 忠元（東北大）
會計幹事 本多 誠一（同）
評議員 大河内重助（米澤工專）
大平達也（仙鐵）吉田聰一（日電工業）

東海支部

支部長 篠原 卯吉（名大）
庶務幹事 前田 幸敏（中部配電）
會計幹事 宮地 巖（名大）
評議員 岡屋精二（三菱電機）
白井 端（日發）關 四郎（名鐵）
三田民雄（中部配電）三好保憲（名古屋）

中國支部

支部長 梶原勲三郎（廣島工專）
庶務幹事 中村 正三（同）
會計幹事 吉本 祐一（中國配電）
評議員 伊藤 誠（廣島工專）
遠藤邦夫（廣瀨）岡田邦彦（日發）
木曾武男（電試）小島善次（廣島商工局）
東 善男（廣鐵）横田英雄（中國配電）

北海道支部

支部長 俣野麻太郎（北大）
庶務幹事 早川 良知（北海道配電）
會計幹事 小池東一郎（北大）
評議員 淺野一郎（北海道配電）
松本秋男（北大）廣井 肇（札幌放送局）

北陸支部

支部長 荒井 武治（日發）
庶務幹事 高木 金生（金澤工專）
會計幹事 喜多善次郎（北陸配電）
評議員 上野 亨（高岡工專）
田邊康平（北陸配電）前田武雄（福井工專）

役員改選報告

役員半数改選の結果下記諸君が當選した。

本 部

會 長 星合 正治（東大）
副會長 尾本 義一（東工大）
同 渡 邊 寧（東北大）
總務理事 阪本 捷房（東大）
會計理事 宮本 茂業（東芝）
編修理事 岡村 總吾（東大）
同 山田三三郎（電試）
調査理事 徳田 巽（日發）
東京支部
支部長 大槻 喬（東工大）

庶務幹事 齊藤 成文（東大）
會計幹事 瀧 保夫（同）
評議員 小澤健一（明電舎）木村久男（三菱電機）久保俊彦（日立）
高木利夫（關東配電）中路幸謙（電試）中島吉雄（富士電機）中島正道（日發）野村達治（放協）藤高周平（東大）米澤 滋（瀨工）

關西支部

支部長 一本松珠璣（關西配電）
庶務幹事 山岡 武夫（同）
會計幹事 大木 正路（三菱電機）
評議員 大久保達郎（京大）辛川

四國支部

庶務幹事 佐藤三代男(日發)
會計幹事 秋山 徳(四配)
評議員 安堂 勝年(新居濱工專)
小倉裕三(四國商工局)
吉原正吾(日發)

標準電氣用語
改訂版近刊

本會電氣規塔調査會編集の「標準電氣用語」は久敷く品切れで御不便をかねていましたが日下改訂出版の手配中で、来る9月コロナ社から出版となりますから御期待を願います。この改訂版には、最近文部省で決定となつた“實用教科書用電氣用語”を全部採録し、且つその解説を加えます。教科書用語の決定に伴い従來の用語にも大分變更を來しましたことを附記して置きます。

第37回通常總會

昭和24年4月30日午前9時半から東大第一工學部三號館に開催、正員2113名(中委任員2,078通)抜山會長司會のもとに下記の件を執行した。(1)昭和23年度事務及事業報告(2)同決算報告(3)定款改正(4)昭和24年度豫算(5)淺野博士獎學祝金及大同電力記念賞金贈呈(6)役員改選報告(7)新會長挨拶
定款改正 は第三條に「八. 通信教育ヲ行フコト」の1項を加へ、現行の「八」を「九」とすることである。
講演會 總會終了後同所に開催した。(出席者216名)

- 1. 醫學上に於ける電氣の應用
東大醫學部佐々内科
醫學博士 櫻田 良精君
2. 研究について
連合軍總司令部民間通信部
F・A, ボールキングホーン君

淺野・大同電力賞

第37回通常總會に於て第24回淺野博士獎學祝金を駒形作次君、第8回大同電力記念賞金を北川一榮君に贈呈した。贈呈文は次の如くである。

淺野賞

貴下昭和二年東京大學卒業後電氣試驗所ニ於テ電氣滲透ソノ他界面電氣化學ノ研究ニ精進シ當時僅カニ獨逸ニ於テ全種ノ研究アリタルニ過ギザルコノ新分野ヲ開拓セララルコノ研究ニ關シ内外ニ發表セラレタル報告ハ數十件ニ及ビソノ成果ノ工業界各方面ニ實施サレタルモノ亦頗ル多シ更ニ電氣材料ノ改善ニ關スル研究ニ就テモ優秀ナル成果ヲ擧ゲラルル等電氣工學並ニ工業ノ進歩發達ニ貢獻スル所多大ナリ依テ賞金贈與規程第二條ニ依リ淺野博士獎學祝金壹千圓ヲ贈呈ス

昭和二十四年四月三十日

電氣學會々長

工學博士 抜山 平一

工學博士 駒形 作次殿

大同賞

貴下住友電氣工業株式會社ニ於テO・F式電力ケーブルノ原理ニ依リ電力用高圧蓄電器ノ研究製作ニ精進セラルソノ一箇ノ容量昭和九年ノ項既ニ100kVAヲ記録シタルガ今日ニ於テハ400kVAニ及フニ至リコレヲ海外ニ比スルニ格段ノ進歩ヲ示シタルモノナリ靜電蓄電器ノカクノ如キ發達ハ變電所ニ於ケル同期進相機ニ替ハル氣運ヲ導キ以テ電力原價ヲ低廉ナラシムルモノニシテソノ功績極メテ大ナリ依テ賞金贈與規程第三條ニ依リ大同電力記念賞金壹千圓ヲ贈呈ス

昭和二十四年四月三十日

電氣學會々長

工學博士 抜山 平一

工學博士 北川 一榮殿

24年度會費の

御拂込を

お忘れなく

講演會

東京支部

昭和24年4月29日(祭)午前9時—午後6時、30日(土)午後1時—6時、東大第一工學部に於て三學會東京支部連合大會を開催、23件の講演があつた。

東海支部

5月10日(火)午後1時名古屋工學部電氣工學科(出席者63)

- 1. 高圧三相四線式配電に就て
中部配電 田中 勝君
2. 名古屋市配電計畫の紹介と技術的諸問題
同 中澤 和夫君
3. ゴムの高周波加硫に就て
名大 一條文二郎君
4. 珪素鋼板の酸化膜絶縁の研究
科學研究所 成田 賢二君

中國支部

4月21日午後1時、中國配電(出席者83名)

- 1. 電熱温床について
電試廣島支所 木曾武男君
北海道支部

4月16日午後2時、札幌高等電氣學校(出席者30名)

- 1. 最近の經濟事情(經濟九原則を中心として)
日銀札幌支店長 佐久間虎雄君

電氣工學論文集

内容 電氣學會雜誌に掲載した資料及び論文の中編修委員會が適當と認めたものの全文、學界季報(海外重要論文の詳しい紹介)、外國文献題目

紙數 E5号—64頁(每號)

發行 年4回

定價 年額 360圓(90圓×4)

申込 一年分又は半年分を前金拂込のこと。

送金 振替東京3168番電氣學會第一號近く發行。希望者は至急申込まれたい。

昭和23年度決算報告

(1) 一般會計

科目	収入	科目	支出
會費	2,505,855.34	總務費	590,835.56
基本財産子	8,373.57	雜誌費	2,232,161.95
預金利息		支部費	176,068.00
廣告料	234,087.00	諸會費	8,600.00
雜誌頒布收入	137,216.20		
雜收入	5,577.50		
特別積立金	116,555.90		
繰越金			
合計	3,007,665.51	合計	3,007,665.51

(2) 事業維持會費

科目	収入	科目	支出
繰越金	72,624.73	電氣規格式	225,750.00
會費	133,000.50	査會費	
		電氣技術費	260,165.30
		電氣員會費	
		事務費	152,093.20
		雜費	94,626.00
		次年度繰越金	178,000.73
合計	910,635.23	合計	910,635.23

(3) 電氣規格調査會費

科目	収入	科目	支出
電氣學會支	225,750.00	調査費	132,853.00
出版物	161,907.25	通信費	20,163.00
頒布收入		事務費	52,880.00
預金利息	331.99	印刷費	147,471.25
		雜費	2,706.60
		調査準備金	1,915.39
合計	387,989.24	合計	3,791.924

(4) 調査委託費

科目	収入	科目	支出
繰越金	68,467.00	調査費	538,586.00
寄附金	560,352.17	次年度繰越金	105,634.17
繰入金	15,451.00		
合計	644,270.17	合計	644,270.17

(5) 電氣技術普及會費

科目	収入	科目	支出
繰越金	73,724.90	調査費	70,517.00
寄附金	469,000.00	出版費	227,480.00
出版物	293,316.20	事務費	50,000.00
頒布收入		通信費	6,120.05
預金利息	600.16		

雜費	6,157.00
立替金	25,790.00
次年度繰越金	1,518.21
合計	36,641.23

※中10萬圓の新計器考案懸賞募集の引當金

(6) 電氣工學年報出版費

科目	収入	科目	支出
頒布收入	344,854.60	編修費	87,761.50
廣告料	31,900.00	事務費	30,000.00
學振受入金	66,275.00	印刷費	3,555.50
特別積立金	45,492.40	發送費	31,535.00
繰越金		雜費	2,740.00
合計	487,622.00	合計	487,622.00

(7) 圖書出版費

科目	収入	科目	支出
出版收入	1,115,173.60	出版費	450,527.50
取次手数料	8,027.14	事務費	190,000.00
		進信費	9,530.00
		雜特別積立金	14,399.00
		繰入金	548,639.24
合計	1,123,205.74	合計	1,123,205.74

(8) 御下賜金

科目	収入	科目	支出
繰越金	875	次年度繰越金	76.23
利子	748		
合計	76.23	合計	76.23

(9) 委託金

科目	収入	科目	支出
繰越金	1,115.47	次年度繰越金	1,541.83
利子	426.36		
合計	1,541.83	合計	1,541.83

池田資金

繰越金	805.78	次年度繰越金	991.82
利子	183.01		
合計	991.82	合計	991.82

大井資金

利子	922.48	祝金費	4,117.00
特別積立金	3,945.2		
合計	4,117.00	合計	4,117.00

(10) 寄附金

科目	收入	科目	支出
廣部資金			
繰越金子計	45032 7055 52087	次年度繰越金 合 計	5037 52087
橋本資金			
繰越金子計	119663 1,2675 2,2338	次年度繰越金 合 計	2,22343 2,22343
島湯資金			
繰越金子計	4247 0 4247	次年度繰越金 合 計	4247 427
岸資金			
繰越金子計	2637 0 2637	次年度繰越金 合 計	2637 2637
岩垂資金			
繰越金子計	177,93314 14,84065 192,77379	研究補助費 米國會費 雜費 次年度繰越金 合 計	10,00000 8,88200 720 173,81979 132,77379
大同電力資金			
繰越金子計	2,60844 1,20000 2,48155 6,41000	賞金費 合 計	6,41000 6,41000
日立資金			
繰越金子計	163955 4440 2,11355	次年度繰越金 合 計	2,11356 2,11356
關西共同火力資金			
繰越金子計	97432 21500 1,18932	次年度繰越金 合 計	1,18932 1,1932
富士電力資金			
繰越金子計	3375 0 3375	次年度繰越金 合 計	3375 3375

京濱電力資金			
繰越金子計	6504 0 6504	次年度繰越金 合 計	6504 6504

(11) 貸借対照表

科目	負債の部	科目	資産の部
御下賜金	2,000	有價証券	430,53333
基本財産	211,15426	信託預金	692,99016
委託金	20,41764	定期預金	27523
寄附金	837,10980	銀行預金	1,203,87434
繰越金	917,3211	振替貯金	468,88590
特別積立金	556,25762	現金	2,47365
調査備前金	113,73821	備品	6,75740
退職積立金	1,03689	假拂金	338,33716
圖書館勘定	7,96529		
假受金	503,97080		
合 計	3,174,18262	合 計	3,174,18262

信託預金中 = 第二封鎖預金 279,136,083 錢ノ含ム

昭和24年度豫算

(1) 一般會計

科目	收入	科目	支出
會費	3,872,20000	總務費	897,40000
基本財産	7,00000	雜誌費	3,577,00000
預金		論文集發行費	27,00000
廣告料	1,254,00000	補給費	20,00000
雜誌頒布收入	157,00000	賞金費	373,90000
雜收	6,00000	支部費	15,30000
特別積立金	100,00000	諸會費	490,90000
繰越金		豫備費	
合 計	5,401,20000	合 計	5,401,20000

(2) 專業維持員會費

科目	收入	科目	支出
繰越會費	178,00073 930,00000	電氣調查會費	262,00000
		電氣技術會費	346,00000
		事務費	170,00000
		雜費	118,00000
		豫備費	212,00073
合 計	1,108,00073	合 計	1,103,00073

(3) 論文集出版費

科目	收入	科目	支出
頒布收入	612,00000	編修費	73,00000

廣告料	金	62,000.00	印 刷 費	562,000.00
一 般 會 計 入	金	27,000.00	配 付 費	31,000.00
合 計	金	699,000.00	豫 備 費	33,000.00
合 計	金	699,000.00	合 計	699,000.00

(4) 通 信 教 育 會 計

科 目	收 入	科 目	支 出
入 學 金	370,000.00	教科書出版費	2,753,400.00
學 費	1,950,000.00	ガイドブック出版費	371,700.00
圖書頒布収入	3,360,000.00	會報出版費	200,000.00
寄 附 金	400,000.00	編 修 費	455,000.00
借 入 金	1,000,000.00	指 導 費	332,000.00
		運 營 費	490,000.00
		周 知 費	400,000.00
		事 務 費	1,134,000.00
		豫 備 費	940,900.00
合 計	7,080,000.00	合 計	7,090,000.00

日 本 學 術 會 議

日本學術會議は本年1月2日から3日間に亘り第1回總會を開き引續いて活動している。その詳細について本會等から推薦した大山松次郎、駒形作次の両會員から報告があつたが、紙面の都合で下記のみを抜萃する。

- 會 長 龜山 直人君 (5部門)
- 副會長 我妻 榮君 (2 ")
- 同 仁科 芳雄君 (4 ")
- 第五部長 鳥養利三郎君 (電 氣)
- 同 副部長 常山秀三郎君 (鑛 山)
- 幹 事 安藝 岐一君 (土 木)
- 同 池田 正二君 (機 械)

本會議に次の7つの委員会が出来た。(人名は第五部から出た委員)

- (1) 研究費並に研究組織 (眞島, 沼地, 桑原, 岸田)
- (2) 大學法案 (栗, 生瀬寺, 池田, 安藝)
- (3) 内外連絡
- (4) 科學技術行政 (大越, 小平)
- (5) 學七院に關するもの (大山)
- (6) 會員身分 (濱田)
- (7) 研究並に教育機關整備擴充 (駒形, 井口, 稻生, 中塚)

尚事務局長には京大事務局長であつた本田弘文君が任命された。

電 氣 學 會 々 報	
昭和24年4月26日印刷	昭和26年5月1日發行
編集兼發行者 東京都千代田區有樂町1の3田野濤司	
印刷者 同	窪 田 信
印刷所 同	大 洋 社
發行所 同	社團法人 電 氣 學 會

新 增 刊 圖 書

書 目	定 價	円
電氣工學年報21年版 (B5-211頁)	250	25
最近の真空技術とその應用 (A5-184頁)	220	20
電氣工學ポケットブック (B6-1876頁)	900	70
電蝕防止操典 (A5-221頁)	150	25
□ 電 氣 技 術 概 説		
1 集・電氣物理 (B6-210頁)	110	20
2 集・測定及電子裝置 (B6-146頁)	80	15
3 集・電氣機器 上卷 (B6-240頁)	210	20
同 下卷 (B6-205頁)	180	15
4 集・送配電及電鐵 (B6-240頁)	240	20
5 集・電 氣 通 信 (B6-203頁)	180	15
□ 電 氣 知 識 普 及 資 料		
4 集・科學繪本お家の電氣 (七色刷美本)	30	10
5 集・感電の話 (B6-54)	20	10
6 集・停電を防止するには (B6-15頁)	15	10
7 集・日本の再建は水力電氣の開発から (B6-29頁)	25	10
□ 専 門 講 習 會 叢 書		
電氣工學に於ける數學の應用 (I) (B6-146頁)	80	15
同 上 (II) (B6-328頁)	180	20
送電工學要講 (I) (B6-334頁)	230	30
電氣機器要講 (II) (B6-381頁)	300	30
□ 電 氣 規 格 (JEC)		
電氣機器一般 (96-1943)	45	10
誘導機 (37-1943)	45	10
ガラス製水銀整流管裝置 (111-1945)	40	10
同 期 機 (114-1948)	50	10
送電用鐵塔及鐵柱 (22A, E-1942)	130	15
衝擊 壓, 衝擊電壓測定法, 變壓器衝擊電壓試驗 (105, 107-1944, 110-1945)	120	15
氣中遮斷器	35	10
電氣規格は以上の外多數出版あり、目錄贈呈 (郵券10圓添付請求あれ)		